

宿 泊 約 款

PROVISIONS GOVERNING ACCOMMODATION AGREEMENTS

四季の郷 豊かに湧き出る 美人湯の宿

奥道後 **美人湯の宿**
ICHIYU NO MORI

奥道後 湯の守 宿泊約款

第1条 当館が宿泊客との間で締結する宿泊契約及びこれに関連する約款は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習によるものとします。

2 当館が、法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定に関わらず、その特約が優先するものとします。

第2条 当館に宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当館に申し出ていただきます。

- (1) 宿泊者名
- (2) 宿泊日及び到着予定時刻
- (3) 宿泊料金（原則として別表第1の基本宿泊料による）
- (4) その他当館が必要と認める事項

2 宿泊客が、宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当館は、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理します。

第3条 宿泊契約は、当館が前項の申込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当館が承諾をしなかった事を証明した時は、この限りではありません。

2 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間（3日を超えるときは3日間）の基本宿泊を限度として当館が定める申込金を、当館が指定するまでに、お支払いいただきます。

3 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条及び第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還します。

第4条 前条第2項の規定にかかわらず、当館は、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しない事とする特約に応じることがあります。

2 宿泊契約の申込みを承諾するに当たり、当館が前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期間を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

第5条 当館は、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。

- (1) 宿泊の申込みが、この約款によらない時。
- (2) 満室により客室の余裕がない時。
- (3) 宿泊しようとする者が、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められる時。
- (4) 宿泊しようとする者が、伝染病者であると明らかに認められる時。
- (5) 宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められた時。
- (6) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができない時。
- (7) 愛媛県旅館業営業施設の衛生に必要な措置及び宿泊の拒否に関する条例第3条の規定する場合に該当する時。

第6条 宿泊客は、当館に申し出て、宿泊契約を解除することが出来ます。

2 当館は、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合（第3条第2項の規定により当館が申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除した時を除きます。）は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当館が第4条第1項の特約に応じた場合にあっては、その特約に応じるに当たって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について、当館が宿泊客に告知した時に限ります。

3 当館は、宿泊客が連絡をしないで宿泊当日の午後8:00時（あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻）になっても到着しない時は、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

第7条 当館は、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除する事があります。

- (1) 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められる時、又は同行為をしたと認められる時。
- (2) 宿泊客が伝染病者であると明らかに認められる時。

(3) 宿泊に関し合理的な範囲を超える負担を求められた時。

(4) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させる事ができない時。

(5) 愛媛県旅館業営業施設の衛生に必要な措置及び宿泊の拒否に関する条例第3条の規定する場合に該当する時。

(6) 寝室での寝たばこ、消防設備等に対するいたずら、その他当館が定める利用規則の禁止事項（火災予防上必要なものに限る）に従わない時。

2 当館が前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がいまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

第8条 宿泊客は、宿泊日当日、当館のフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。

- (1) 宿泊客の氏名、年令、性別、住所及び職業
- (2) 外国人にあっては、国籍、旅券番号、入国地及び入国年月日
- (3) 出発日及び出発予定時刻
- (4) その他当館が必要と認める事項

2 宿泊客が第12条の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとする時は、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

第9条 宿泊客が当館の客室を使用できる時間は、午後2時から翌朝10時までとします。ただし、連続して宿泊する場合には、到着日及び出発日を除き、終日使用することができます。

2 当館は、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の使用に応じることがあります。この場合には次に掲げる追加料金をもうし受けます。

- (1) 超過3時間までは、室料金の3分の1
- (2) 超過6時間までは、室料金の2分の1
- (3) 超過6時間以上は、室料金の全額

3 （前項の室料相当額は、基本宿泊料の70%とします。）

第10条 宿泊客は、当館内においては、当館が定めて館内に掲示した利用規則に従っていただきます。

第11条 当館の主な施設等の営業時間はフロント及び備付けパンフレット、各所の掲示、客室内のサービスディレクトリー等で御案内致します。

2 前項の時間は、必要やむを得ない場合には臨時に変更することがあります。その場合には、適当な方法をもってお知らせします。

第12条 宿泊客が支払うべき宿泊料等の内訳及びその算定方法は、別表第1に掲げるところによります。

2 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨又は当館が認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等これにかわり得る方法により、宿泊客の出発の際又は当館が請求した時、フロントにおいて行っていただきます。

3 当館が宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けます。

第13条 当館は、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり、又はそれらの不履行により宿泊客に損害を与えた時は、その損害を賠償します。ただし、それが当館の責に帰すべき事由によるものではないときは、この限りではありません。

2 当館は、消防機関から適マークを受領しておりますが、万一の火災等に対処するため旅館賠償責任保険に加入しております。

第14条 当館は、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設を斡旋するものとします。

2 当館は、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設の斡旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当館の責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

第15条 宿泊客がフロントにお預けになった物品又は現金並びに貴重品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが、不可抗力である場合を除き、当館は、その損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、当館がその種類及び価額の明告を求めた場合であって、宿泊客がそれを行わなかったときは、当館は15万円を限度としてその損害を賠償します。

2 宿泊客が、当館内にお持込みになった物品又は現金並びに貴重品であってフロントにお預けにならなかったものについて、当館の故意又は過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは当館は、その損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の明告のなかったものについては、15万円を限度として当館はその損害を賠償します。

第16条 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当館に到着した場合はその到着前に当館が了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際お渡しします。

2 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品が当館に置き忘れられていた場合において、その所有者が判明したときは、当館は、当該所有者に連絡するとともにその指示を求めるものとします。ただし、所有者の指示がない場合又は所有者が判明しないときは、発見日を含め7日間保管し、その後最寄りの警察署に届けます。

3 前2項の場合における宿泊客の手荷物又は携帯品の保管についての当館の責任は、第1項の場合にあつては前条第1項の規定に前項の場合にあつては同条第2項の規定に準じるものとします。

第17条 宿泊客が当館の駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当館は場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理に当たり、当館の故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

第18条 宿泊客の故意又は過失により当館が損害を被ったときは、当該宿泊客は当館に対し、その損害を賠償していただきます。

別表第1 宿泊料金等の算定方法（第2条第1項、第3条第2項及び第12条第1項関係）

		内 訳
宿泊客が支払うべき総額	宿泊料金①	①基本宿泊料 室料又は（室料＋朝食＋夕食） ②サービス料 ③税金 イ、消費税 ロ、入湯税
	追加料金②	④飲食料（又は追加飲食及びその他の利用料金） ⑤サービス料 ⑥消費税

別表2 違約金（第6条 2項関係）

契約解除の通知を受けた日		不泊	当日	前日	2日前	3日前
人 員						
一般	14名まで	100%	100%	50%	30%	20%

別表2 違約金（第6条 2項関係）

契約申込み人数		14名まで	15名から30名	31名から100名	100名以上
契約解除通知を受けた日	不泊	100%	100%	100%	100%
	当日	100%	100%	100%	100%
団 体	前日	50%	50%	80%	80%
	2日前	30%	30%	50%	50%
	3日前	20%	30%	30%	50%
	5日前		30%	30%	30%
	6日前			20%	30%
	7日前			20%	30%
	8日前			10%	15%
	14日前			10%	15%
	15日前				10%
	30日前				10%

（注） 1. %は、宿泊料金に対する違約金の比率です。
2. 契約日数が短縮した場合は、その短縮日数にかかわらず、1日分（初日）の違約金を収受します。
3. 団体客（15名以上）の一分について契約の解除があった場合、宿泊の10日前（その日より後に申込みをお引き受けした場合にはそのお引き受けした日）における宿泊人数の10%（端数が出た場合には切り上げる）にあたる人数については、違約金はいただきません。

（宿泊客見舞金規程）

第19条 当館は、当館の宿泊客が当館宿泊中に傷害以外の事由により死亡した場合には、別に定める宿泊客見舞金規程に記載の事項を実施いたします。

宿泊客見舞金規程

（目的）

第1条 本規程は、宿泊客の死亡に際し、当館が弔意を表して給付する金品等に関し、必要な事項を定めたものです。

（死亡弔慰金等）

第2条 当館は、当館の宿泊客が当館宿泊中に傷害以外の事由により死亡した場合に以下に掲げる事項を実施いたします。ただし、「当館宿泊中」とは、当館にチェックインしてからチェックアウトするまでの間とします。

- ① 遺族に対して、死亡弔慰金を給付いたします。死亡弔慰金の金額は、死亡した宿泊客1名につき、10万円を限度とします。
- ② 状況に応じ、死亡した宿泊客の葬儀に、当館の役員、従業員または当館が指定する代表者が出席いたします。
- ③ 状況に応じ、死亡した宿泊客の葬儀に当館より献花等を行います。

(給付の制限)

第3条 次のいずれかに該当する場合は、前条に掲げる事項を実施いたしません。

- ① 宿泊客の麻薬、あへん、大麻、または覚醒剤、シンナー等の使用によって死亡した場合
- ② 宿泊客の妊娠、出産、早産または流産が原因で死亡した場合
- ③ 宿泊客の自殺行為によって死亡した場合
- ④ 核燃料物質(使用済燃料を含みます。以下同様とします。)もしくは核燃料物質によって汚染された物(原子核分裂生成物を含みます。)の放射性、爆発性その他の有害な特性またはこれらの特性による事故が原因で発症した疾病によって死亡した場合
- ⑤ 前項以外の放射線照射または放射能汚染によって発症した疾病によって死亡した場合
- ⑥ 細菌性食物中毒によって死亡した場合

(書類の提出)

第4条 死亡した宿泊客の遺族が本規程の定めるところに従って死亡弔慰金を受け取ろうとするときは、以下の書類を当館にご提出いただくものとします。

- ① 所定の死亡弔慰金請求書
- ② 医師の死亡書診断書または死体検案書
- ③ 死亡した宿泊客と死亡弔慰金を受け取る方の関係を証明する書類

(保険会社との契約)

第5条 第2条に定める死亡弔慰金の支払等を確実にするため、その保全措置として、当館は死亡弔慰金等のすべてまたはその一部について、保険会社と保険契約を締結することがあります。

宿泊契約締結の拒否

1 当館は、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないものとします。

- ① 宿泊しようとする者が暴力団、暴力団員、暴力団関係企業・団体またはその関係者、その他反社会勢力(以下「暴力団等反社会勢力」という。)である場合
- ② 宿泊しようとする者が暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体である場合
- ③ 宿泊しようとする者が法人でその役員のうちに暴力団員に該当する者のあるもの
- ④ 宿泊しようとする者が他の宿泊者に著しい迷惑を及ぼす言動をした場合
- ⑤ 宿泊しようとする者が当館もしくはその従業員に対し、暴力的要求行為を行い、または合理的範囲を超える負担を要求した場合

当館の契約解除権

2 当館は、宿泊者が次の事由に該当する場合、宿泊契約を解除するものとします。

- ① 暴力団等反社会勢力
- ② 暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体
- ③ 法人でその役員のうちに暴力団員に該当する者のあるもの
- ④ 他の宿泊者に著しい迷惑を及ぼす言動をした場合
- ⑤ 当館もしくはその従業員に対し、暴力的要求行為を行い、または合理的範囲を超える負担を要求した場合

宴会利用契約締結の拒否および解除

3 当館は、次に掲げる場合において、宴会利用契約の締結に応じないものとします。また、宴会利用契約を締結した場合は解除するものとします。

- 1 宴会場に出席する利用客の中に次の事由に該当する者がいる場合
 - ① 暴力団、暴力団員、暴力団関係企業・団体またはその関係者、その他反社会勢力(以下「暴力団等反社会勢力」という。)
 - ② 暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体
 - ③ 法人でその役員のうちに暴力団員に該当する者のあるもの
- 2 当館のほかの利用者に著しい迷惑を及ぼす言動をした場合
- 3 当館もしくはその従業員に対し、暴力的要求行為を行い、または合理的範囲を超える負担を要求した場合

予約・契約の拒否及び解除

当館のレストランは、次に掲げる場合において、レストランの利用予約・契約の締結に応じないものとします。また、利用予約・契約を締結した後においてその事実が判明した場合は、契約を解除するものとします。

- 1 利用者の中に次の事由に該当する者がいる場合
 - ① 暴力団、暴力団員、暴力団関係企業・団体またはその関係者、その他反社会勢力(以下「暴力団等反社会勢力」という。)
 - ② 暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体
 - ③ 法人でその役員のうちに暴力団員に該当する者のあるもの
- 2 レストランの他の利用者に著しい迷惑を及ぼす言動をした場合
- 3 レストランもしくはその従業員に対し、暴力的要求行為を行い、または合理的範囲を超える負担を要求した場合

(Scope of Application)

Article 1.

Contracts for Accommodation and related agreements to be entered into between this Ryokan and the Guest to be accommodated shall be subject to these Terms and Conditions. And any particulars not provided for herein shall be governed by laws and regulations and/or generally accepted practices.

2. In the case when the Ryokan has entered into a special contract with the Guest insofar as such special contract does not violate laws and regulations and generally accepted practices, notwithstanding the preceding Paragraph, the special contract shall take precedence over the provisions of these Terms and Conditions.

(Application for Accommodation Contracts)

Article 2.

A Guest who intends to make an application for an Accommodation Contract with the Ryokan shall notify the Ryokan of the following particulars:

- (1) Name of the Guest(S);
- (2) Date of accommodation and estimated time of arrival;
- (3) Accommodation Charges (based, in principle, on the Basic Accommodation Charges listed in the Attached Table No.1.) and
- (4) Other particulars deemed necessary by the Ryokan.

2. In the case when the Guest requests, during his stay, extension of the accommodation beyond the date in subparagraph (2) of the preceding Paragraph, it shall be regarded as an application for a new Accommodation Contract at the time such request is made.

(Conclusion of Accommodation Contracts, etc.)

Article 3.

A Contract for Accommodation shall be deemed to have been concluded when the Ryokan has duly accepted the application as stipulated in the preceding Article. However, the same shall not apply where it has been proved that the Ryokan has not accepted the application.

2. When a Contract for Accommodation has been concluded in accordance with the provisions of the preceding Paragraph, the Guest is requested to pay an accommodation deposit fixed by the Ryokan within the limits of Basic Accommodation Charges covering the Guest's entire period of stay (3 days when the period of stay exceeds 3 days) by the date specified by the Ryokan.

3. The deposit shall be first used for the Total Accommodation Charges to be paid by the Guest, then secondly for the cancellation charges under Article 6 and thirdly for the reparations under Article 18 as applicable, and the remainder, if any, shall be refunded at the time of the payment of the Accommodation Charges as stated in Article 12.

4. When the Guest has failed to pay the deposit by the date as stipulated in Paragraph 2, the Ryokan shall treat the Accommodation Contract as invalid. However, the same shall apply

only in the case where the Guest is thus informed by the Ryokan when the period of payment of the deposit is specified.

(Special Contracts Requiring No Accommodation Deposit)

Article 4.

Notwithstanding the provisions of Paragraph 2 of the preceding Article, the Ryokan may enter into a special contract requiring no accommodation deposit after the Contract has been concluded as stipulated in the same Paragraph.

2. In the case when the Ryokan has not requested the payment of the deposit as stipulated in Paragraph 2 of the preceding Article and/or has not specified the date of the payment of the deposit at the time the application for an Accommodation Contract has been accepted, it shall be treated as that the Ryokan has accepted a special contract prescribed in the preceding Paragraph.

(Refusal of Accommodation Contracts)

Article 5.

The Ryokan may not accept the conclusion of an Accommodation Contract under any of the following cases:

- (1) When the application for accommodation does not conform with the provisions of these Terms and Conditions;
 - (2) When the Ryokan is fully booked and no room is available;
 - (3) When the Guest seeking accommodation is deemed liable to conduct himself in a manner that will contravene the laws or act against the public order or good morals in regard to his accommodation;
 - (4) When the Guest seeking accommodation can be clearly detected as carrying an infectious disease;
 - (5) When the Ryokan is requested to assume an unreasonable burden in regard to his accommodation;
 - (6) When the Ryokan is unable to provide accommodation due to natural calamities, disfunction of the facilities and/or other unavoidable causes;
- or
- (7) When the provisions of Article 3 of the Ehime Prefectural Ordinance concerning the enforcement of the "Ryokan Business Law are applicable.

(Right to Cancel Accommodation Contracts by the Guest)

Article 6.

The Guest is entitled to cancel the Accommodation Contract by so notifying the Ryokan.

2. In the case when the Guest has cancelled the Accommodation Contract in whole or in part due to causes for which the Guest is liable (except in the case when the Ryokan has requested the payment of the deposit during the specified period as prescribed in Paragraph 2 of Article 3 and the Guest has cancelled before the payment), the Guest shall pay cancellation charges as listed in the Attached Table No.2. However, in the case when a special contract as prescribed in Paragraph 1 of

Article 4 has been concluded, the same shall apply only when the Guest is informed of the obligation of the payment of the cancellation charges in case of cancellation by the Guest.

3. In the case when the Guest does not appear by 8:00 p.m. of the accommodation date (2 hours after the expected time of arrival if the Ryokan is notified of it) without an advance notice, the Ryokan may regard the Accommodation Contract as being cancelled by the Guest.

(Right to Cancel Accommodation Contracts by the Ryokan)

Article 7.

The Ryokan may cancel the Accommodation Contract under any of the following cases:

(1) When the Guest is deemed liable to conduct and/or have conducted himself in a manner that will contravene the laws or act against the public order and good morals in regard to his accommodation;

(2) When the Guest can be clearly detected as carrying an infectious disease;

(3) When the Ryokan is requested to assume an unreasonable burden in regard to his accommodation;

(4) When the Ryokan is unable to provide accommodation due to natural calamities and/or other causes of force majeure;

(5) When the provisions of Article 3 of the Ehime Prefectural Ordinance concerning the enforcement of the "Ryokan Business Law" are applicable.

(6) When the Guest does not observe prohibited actions such as smoking in bed, mischief to the fire-fighting facilities and other prohibitions of the Use Regulations stipulated by the Ryokan (restricted to particulars deemed necessary in order to avoid the causing of fires).

(Registration)

Article 8.

The Guest shall register the following particulars at the front desk of the Ryokan on the day of accommodation:

(1) Name, age, sex, address and occupation of Guest(s);

(2) Except Japanese, nationality, passport number, port and date of entry in Japan;

(3) Date and estimated time of departure; and

(4) Other particulars deemed necessary by the Ryokan.

2. In the case when the Guest intends to pay his Accommodation Charges prescribed in Article 12 by any means other than Japanese currency, such as traveler's cheques, coupons or credit cards, these credentials shall be shown in advance at the time of the registration prescribed in the preceding Paragraph.

(Occupancy Hours of Guest Rooms)

Article 9.

The Guest is entitled to occupy the contracted guest room of the Ryokan from p.m. to a.m. the next morning. However, in the case when the Guest is accommodated continuously, the Guest may occupy it all day long, except for the days of arrival and

departure.

2. The Ryokan may, notwithstanding the provisions prescribed in the preceding paragraph, permit the Guest to occupy the room beyond the time prescribed in the same Paragraph. In this case, extra charges shall be paid as follows:

(1) Up to 3 hours: one third of the room charge

(or 35% of the equivalent in the sum to the room charge)

(2) Up to 6 hours: one half of the room charge

(or 50% of the equivalent in the sum to the room charge)

(3) More than 6 hours: room charge in full

(or 100% of the equivalent in the sum to the room charge)

3. The equivalent in the sum to the room charge prescribed in the preceding Paragraph shall be 70% of the Basic Accommodation Charges.)

(Observance of Use Regulations)

Article 10.

The Guest shall observe the Use Regulation established by The Ryokan, which are posted within the premises of the Ryokan.

(Business Hours)

Article 11.

The business hours of the main facilities, etc. shall be notified in detail by the front desk of the Ryokan and brochures provided, notices displayed in each place, service directories in guest rooms and others.

2. The business hours specified in the preceding Paragraph are subject to temporary changes due to unavoidable causes of the Ryokan. In such a case, the Guest shall be informed by appropriate means.

(Payment of Accommodation Charges)

Article 12.

The breakdown and method of calculation of the Accommodation Charges, etc. that the Guest shall pay is as listed in the Attached Table No.1.

2. Accommodation Charges, etc. as stated in the preceding Paragraph shall be paid with Japanese currency or by any means other than Japanese currency such as traveler's cheques, coupons or credit cards recognized by the Ryokan at the front desk at the time of the departure of the Guest or upon request by the Ryokan.

3. Accommodation Charges shall be paid even if the Guest voluntarily does not utilize the accommodation facilities provided for him by the Ryokan and are at his disposal.

(Liabilities of the Ryokan)

Article 13.

The Ryokan shall compensate the Guest for the damage if the Ryokan has caused such damage to the Guest in the fulfillment or the nonfulfillment of the Accommodation Contract and/or related agreements. However, the same shall not apply in case

where such damage has been caused due to reasons for which the Ryokan is not liable.

2. Even though the Ryokan has received the "PASS MARK" (Certificate of excellence of Fire Prevention Standard issued by the fire station) , furthermore, the Ryokan is covered by the Ryokan Liability Insurance in order to deal with unexpected fire and/or other disasters. or

2. The Ryokan is a facility (with one or two stories, or with accommodation capacity of less than 30 persons) which does not require the "PASS MARK"(Certificate of excellence of Fire Prevention Standard issued by the fire station), but makes continuous efforts to keep good fire-proof facilities, and furthermore, the Ryokan is covered by the Ryokan Liability Insurance in order to deal with unexpected fire and/or other disasters.

(Handling When unable to provide Contracted Rooms)

Article 14.

The Ryokan shall, when unable to provide contracted rooms, arrange accommodation of the same standard elsewhere for the Guest insofar as practicable with the consent of the Guest.

2. When arrangement of other accommodation can not be made notwithstanding the provisions of the preceding Paragraph, the Ryokan shall pay the Guest a compensation fee equivalent to the cancellation charges and the compensation fee shall be applied to the reparations. However, when the Ryokan cannot provide accommodation due to causes for which the Ryokan is not liable, the Ryokan shall not compensate the Guest.

(Handling of Deposited Articles)

Article 15.

The Ryokan shall compensate the Guest for the damage when loss, breakage or other damage is caused to the goods, cash or valuables deposited at the front desk by the Guest, except in the case when this has occurred due to causes of force majeure. However, for cash and valuables, when the Ryokan has requested the Guest to report its kind and value but the Guest has failed to do so, the Ryokan shall compensate the Guest within the limits of 150,000yen.

2. The Ryokan shall compensate the Guest for the damage when loss, breakage or other damage is caused, through intention or negligence on the part of the Ryokan, to the goods, cash or valuables which are brought into the premises of the Ryokan by the Guest but are not deposited at the front desk. However, for articles of which the kind and value has not been reported in advance by the Guest, the Ryokan shall compensate the Guest within the limits of 150,000yen.

(Custody of Baggage and/or Belongings of the Guest)

Article 16.

When the baggage of the Guest is brought into the Ryokan before his arrival, the Ryokan shall be liable to keep it only in the case when such a request has been accepted by the Ryokan. The baggage shall be handed over to the Guest at the front desk

at the time of his check-in.

2. When the baggage or belongings of the Guest is found left after his check-out, and the ownership of the article is confirmed, the Ryokan shall inform the owner of the article left and ask for further instructions. When no instruction is given to the Ryokan by the owner or when the ownership is not confirmed, the Ryokan shall keep the article for 7 days including the day it is found, and after this period, the Ryokan shall turn it over to the nearest police station.

3. The Ryokan's liability in regard to the custody of the Guest's baggage and belongings in the case of the preceding two Paragraphs shall be assumed in accordance with the provisions of Paragraph 1 of the Preceding Article in the case of Paragraph 1, and with the provisions of Paragraph 2 of the same Article in the case of Paragraph 2.

(Liability in regard to Parking)

Article 17.

The Ryokan shall not be liable for the custody of the vehicle of the Guest when the Guest utilizes parking lot within the premises of the Ryokan, as it shall be regarded that the Ryokan simply offers the space for parking, whether the key of the vehicle has been deposited to the Ryokan or not. However, the Ryokan shall compensate the Guest for the damage caused through intention or negligence on the part of the Ryokan in regard to the management of the parking lot.

(Liability of the Guest)

Article 18.

The Guest shall compensate the Ryokan for the damage caused through intention or negligence on the part of the Guest.

Attached Table No.1

Calculation method for Accommodation Charges, etc. for Ryokans (for accommodation facilities which do not provide breakfast and dinner, or which do not provide dinner)

(Ref. Paragraph 1 of Article 2, Paragraph 2 of Article 3 and Paragraph 1 of Article 12)

		Contents
Total Amount to be paid by the Guest	Accommodation Charges	(1) Basic Accommodation Charge (Room Charge (or Room Charge + Breakfast + Dinner))
		(2) Service Charge ((1) × 10%)
		(3) Taxes a. Consumption Tax b. Hot Spring Tax (only in spa districts)
	Extra Charges	(4) Meals & Drinks (or Extra Meals & Drinks (other than Breakfast)) and Other Expenses
		(5) Service Charge ((4) × 10%)
		(6) Taxes c. Consumption Tax

Attached Table No.2

Cancellation Charge for Ryokans (Ref. Paragraph 2 of Article 6)

Date when Cancellation of Contract is Notified		Contracted Number of Guests	No Show	Accommodation Day	1 Day Prior to Accommodation Day	9 Day Prior to Accommodation Day	20 day Prior to Accommodation Day
Individual	1 to 14		100%	80%	20%		
Group	15 to 99		100%	80%	20%	10%	
	100 and more		100%	100%	80%	20%	10%

Attached Table No.2

Cancellation Charge for Ryokan (Ref. Paragraph 2 of Article 6)

Date when Cancellation of Contract is Notified		Contracted Number of Guests	No Show	Accommodation Day	1 Day Prior to Accommodation Day	2 Days Prior to Accommodation Day	3 Days Prior to Accommodation Day	5	6	7	8	14	15	30
1 to 14			50 %	50 %	20 %	20 %	20 %							
15 to 30			50 %	50 %	20 %	20 %	20 %	20 %						
31 to 100			70 %	70 %	50 %	20 %	20 %	20 %	20 %	10 %	10 %			
101 and more			70 %	70 %	50 %	25 %	25 %	25 %	25 %	15 %	15 %	10 %	10 %	

Remarks:

1. The percentages signifies the rate cancellation charge

Remarks.

1. The percentages signifies the rate of cancellation charge to the Accommodation charges.
2. When the number of days contracted is shortened, cancellation charge for its first day shall be paid by the Guest regardless of the number of days shortened.
3. When part of a group booking (for 15 persons or more) is cancelled, the cancellation charge shall not be charged for the

number of persons equivalent to 10% of the number of persons booked as of 10 days prior to the occupancy (When accepted less than 10 days prior to the occupancy, as of the date) with fractions counted as a whole number.

(Provisions for Condolence Money for Ryokan Guests)

Article 19. This ryokan shall do the acts stated in the "Provisions for Condolence Money for Ryokan Guests" in the event of the death of a guest during his or her stay with the ryokan, due to causes other than an injury.

Provisions for Condolence Money for Ryokan Guests

(Purpose)

Article 1. These articles provide for matters relevant to the offer of money or articles which this ryokan makes to express condolences in the event of the death of a guest of the ryokan.

(Condolence Money, etc.)

Article 2. This ryokan shall do the following acts in the event of the death of a guest during his or her stay with the ryokan, due to causes other than an injury; the words "during his or her stay with the ryokan" shall mean the time from his or her checkin at the ryokan to the time of his or her checkout from the ryokan:

- ① The ryokan shall pay the bereaved family condolence money up to Yen 100,000 per deceased guest.
- ② Depending on circumstances, the ryokan shall send director(s) or employee(s) of the ryokan or any other person appointed to represent the ryokan to the funeral of the deceased guest.
- ③ Depending on circumstances, the ryokan shall send flowers to the funeral of the deceased guest.

(Limitation of Benefits)

Article 3. The ryokan shall be exempted from doing any of the acts stated in the foregoing Article, in the event that the death of a ryokan guest is due to any of the following causes:

- ① The use of drugs, opium, hemp, narcotics, thinner, etc.;
- ② Pregnancy, childbirth, premature birth, or miscarriage;
- ③ A suicidal attempt;
- ④ Diseases caused by the radioactivity, explosiveness, other harmful qualities or accidents arising from such qualities of nuclear fuel materials (including used fuel materials; this meaning applying hereinafter) or materials contaminated by any of such nuclear fuel materials (including nuclear fission products);
- ⑤ Diseases caused by nuclear radiation or nuclear contamination other than those stated in ④ above;
- ⑥ Bacterial food poisoning

(Submission of Documents)

Article 4. The bereaved family of a deceased guest is requested to

submit the following documents to the ryokan in order to receive condolence money in accordance with these provisions:

- ① A prescribed request form for condolence money
- ② A doctor's death certificate or postmortem report
- ③ A document proving the relationship between the deceased guest and the beneficiary

(Contract with an Insurance Company)

Article 5. For the purpose of securing the offer of condolence money, etc. provided for in Article 2, the ryokan may take the precautionary measure of effecting a contract with an insurance company in respect of the whole or a part of such condolence money, etc.

利 用 規 則

当館では、お客様に安全かつ快適にご利用いただくため、宿泊約款第10条に基づき、次のとおり利用規則を定めておりますので、ご協力下さいますようお願い申し上げます。遵守いただけない場合は、やむを得ず、ご宿泊又は館内諸施設のご利用をお断り申し上げ、又場合によっては損害をご負担頂くこともございますので、特にご留意下さいますようお願い申し上げます。

火災予防上お守りいただきたい事項

1. 火災の原因となりやすい場所（寝たばこ、館内の歩行中）でのご喫煙はおやめ下さい。
2. 客室内には暖房用、炊事等の火器及びアイロン等を持ち込み、ご使用はおやめ下さい。
3. その他火災の原因となるような行為はおやめ下さい。

保安上お守りいただきたい事項

1. ご滞在中のお部屋からお出になる節には、施錠をご確認下さい。
2. 館外へお出かけの時は、フロントに鍵をお預け下さいませ。
3. ご訪問客と客室内でのご面会はお遠慮願います。面会はロビー又はラウンジをご利用下さい。
4. 消防用設備等のいたずらは、安全の維持に支障が生じますのでおやめ下さい。

貴重品・お預り品及び遺失物のお取扱について

1. 貴重品については事故防止のため、必ずフロントにお預けください。
2. ご滞在中の現金・貴重品等をフロントにお預けにならず滅失毀損等によって生じた損害については、賠償致しかねますので、ご了承の程お願い申し上げます。

お支払いについて

1. 館内のバーなどをサインにてご利用される場合は、お手数ですが客室の鍵をご提示ください。
なお、各種乗物の切符代、タクシー代、切手代、送料等のお立替えはお断りさせていただきます。
2. 都合により、ご到着時にお預り金を申し受ける事がございますので、ご了承ください。

その他お守りいただきたい事項

1. 館内にて他のお客様の迷惑となるような、犬、猫、小鳥などの動物、発火又は引火物、異臭を発するもの その他、法令で所持を禁止されている物の持込はおことわりします。
2. 館内で、高声、放歌、喧噪な行為、賭博、風紀・治安を乱す様な行為等、他のお客様の迷惑になるような言動はお慎みください。
3. 当館の許可なく客室、ロビー等を営業行為（展示、広告、宣伝、販売等）など他の目的に使用しないでください。
4. 館内の施設、備品の現状を著しく変更したり、他の用途以外にご使用にならないでください。
5. 客室の窓側、廊下、ロビー等に物品を陳列したり、放置しないでください。
6. 風呂、洗面を使用後は必ず給湯水をお止めください。他のお部屋に被害が及ぶことがございます。
7. 下駄、ゴム長靴等での入館はお遠慮ください。
8. 未成年者のみの宿泊は、保護者の承認がなければお断りします。
9. エネルギー節約の為、節水、節電にご協力ください。